



共に向上

令和5年7月1日
岐阜市立島中学校

子どもの安全を守る

6月2日（金）は全国的に大雨となり、岐阜県内においても土岐川が氾濫するなど被害が発生しました。新聞等によると、その日は東海道新幹線が運転を見合わせたため、修学旅行先から帰校できず車内で一夜を過ごした中学校もあったようです。

本校でも、前日から2年生が篠島研修に出発しており、無事に帰校できるか心配でした。篠島での活動を入れ替えたり前倒ししたりして、2日目の行程を早め午後3時に無事帰校しました。保護者の皆様には、ご心配をおかけしました。

この日は、午後3時頃に警報に切り替わる予報でした。そのため、校区の小学校と対応を協議し、1・3年生は給食を食べて下校する予定でいました。午前11時頃に大雨注意報から大雨警報（土砂災害）に切り替わりましたが、本校の校区には土砂災害警戒区域がないことから、職員による巡回で通学路の安全を確認し、木田小校区の子どもには松尾橋（沈下橋）を通らないよう指導して、一斉下校を行いました。

6月15日のPTA執行委員会でこのことを議題にし、今回のように大雨による警報への切り替えが予報されている場合の対応を協議しました。会の中で「6月2日は、朝から自宅待機とした方がよかったと思うか」と尋ねると、約半数の委員が賛同されました。現在の対応マニュアルには、台風接近に伴う強風注意報での授業打ち切りは示されていますが、大雨警報に切り替わる予報での授業打ち切りは示されていません。しかし、伊自良川を越えて登校する木田小校区のお子さんの安全確保や、荒天時の自転車通学の危険性への配慮が必要です。一方で、自宅待機（臨時休業）に伴う保護者の負担や校区の小学校との連携、給食の廃棄など、課題もあります。このことについて引き続きPTAと協議し、子どもの安全を守るマニュアルへと改善を図ります。

校長 辻 伸之

SNSの危険性

SNSは、様々な情報を手に入れたり、自分の体験や考えを手軽に発信したりできる便利なツールです。一方、SNSでの誹謗中傷や損害賠償問題、DM（ダイレクトメッセージ）による出会い（誘拐）や性犯罪が全国的に問題となっています。

お子さんが被害にあったり、他人を傷つけたりしないようご指導ください。

河川での水難事故

6月に入り、長良川で市内の中学2年生が溺れて救急搬送された事故が報道されました。夏休みに向けて、学校では事故防止の啓発を行います。ご家庭においても水難事故の危険性をお子さんにお伝えください。

○ 日帰り研修・宿泊研修の実施方法について

本校では、1年生は東濃地方への日帰り研修を、2年生は篠島での海の体験を取り入れた1泊2日の宿泊研修を、また3年生は、関西方面での学級別研修やUSJ 班別研修を行う1泊2日の修学旅行を行っています。今年度の研修は、コロナウィルス感染症の規制が緩和され、初めての行事となりましたが、研修内容の効率化や保護者の負担軽減を考え、この内容で行うこととしました。

研修のテーマは、1年生は「郷土を知る」、2年生は「海（湖）に生きる人を知る」、3年生は「社会を知る」とし、テーマに合わせた研修内容、研修場所を来年度も検討することとしています。



○ 将来の地域のリーダー候補生たちの活躍

6月11日（日）に城西小学校の体育館で、城西校区レクリエーションフェスタが行われ、島中 CVS 部と有志の生徒、合わせて20名がボランティアとして参加しました。定員の関係でやむを得ず参加を断念してもらうほど、ボランティアへの参加意欲が高まっています。

当日は、たくさんの小学生と保護者の方が参加され、会場の体育館は多くの人でにぎわいました。その中で、ボランティアの生徒はレクリエーションの内容を説明したり、ゲームのお世話をしたりするなど、地域の大人の方と一緒に、積極的に活動に取り組んでいました。

参加したボランティアの生徒は、「疲れたけど楽しかった」「地域のために貢献できて嬉しかった」「また参加します」と充実感を得て活動を終えることができました。

こうした CVS 部員やボランティア活動に興味をもっている生徒が、地域の活動を知り、将来地域のリーダーとなって活躍していくことを願っています。

現在、ラジオ体操や防災訓練、夏祭りのボランティアの依頼もいただいています。地域の行事で、名札や腕章を付けて活躍する CVS 部のメンバーや有志のボランティアの生徒を見かけたら、ぜひ励ましや労いのお言葉をかけていただくと生徒たちの遣り甲斐や意欲につながり、ありがたいです。



○ 生き方を学ぶパラリンピアンとの交流

6月27日（火）パラ陸上競技100m走と400m走で日本記録を保持する石田駆選手に本校いただき、講演と実技指導をしていただきました。石田選手は、昨年も島中学校に来て陸上部員に講演と実技指導をしていただいています。

今年は、多くの生徒にメッセージを送りたいとの石田選手の願いで、陸上部だけでなく、全校生徒に声をかけ、参加者を募りました。実技指導では、速く走るための足の動かし方について教えていただき、最後は、生徒たちとの50m競走をしていただきました。

参加した生徒は、「石田選手のように、自分も困難に負けず、ひとつのことを貫くことができる人になりたい。」と話してくれました。

